



## 第3回PT会議より

学習指導要領改訂に伴い、今年度から高校で始まった観点別学習状況の評価（観点別評価）について、教科毎の現状を共有しました。

最初に全体場で、「化学基礎」の評価について松田先生から、「歴史総合」の評価について杉坂先生と室井先生から報告がありました。その後、研修を行い、グループごとに3観点（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）をどのように評価したかを共有し、その中で、より良い評価のあり方について様々な意見やアイデアが出されました。

PT会議には、福井大学准教授・遠藤貴広先生も参加してくださいました。観点別評価の解説やアドバイス、遠藤先生ご自身が大学でどのように評価を行っておられるかのご紹介、昨今の大学入試の変化など、多岐にわたってご教示くださいました。また、実際の生徒の作品をいくつか選んで複数の先生方で評価し、すりあわせを行うことで、評価の信頼性が上がっていく「モデレーション」という手法についてもご提案くださいました。



遠藤先生がお話くださった「モデレーション」を、これまでに国語、社会、CE(人文社会探究の略称)等、様々な教科・科目で実践してみました。教師一人一人の価値観や判断基準が可視化されるため、評価のすり合わせができた、評価で大事にしたい観点がより明確化できた、といった「モデレーション」の意義を実感する声が聞かれました。

## 第4回PT会議より 授業実践 教科横断型(英語×社会)

西口佳光 室井浩貴 教諭 1年3組

9月16日(金) 3限目の1年3組英語コミュニケーションの時間に、世界史の室井先生にビデオで登場いただきました。英語の教科書にはルワンダ内戦を生き延びた女性が主人公として描かれていましたが、内戦に至った経緯や惨状が十分に語られていません。そこで室井先生に内戦についての詳しい解説をお願いしました。生徒はどのような理由、方法によってルワンダの人々が分断されたのかをよく理解してLessonの後半を読み進めることができました。また、このビデオで関心を持ち、さらにインターネットで内戦について調べる生徒もいました。世界史では2年次に扱われる内容について事前に触れる機会となり、両教科にとって大変意義のある時間となりました。



## 研修 合理的配慮について

武生高校定時制の為国順治教頭先生をお招きし、「合理的配慮」についての研修を行いました。為国先生は、これまでの豊富なご経験のもと、障害を抱えた生徒に対してどのような合理的配慮が考えられるか、もしくは何が合理的配慮にあたるのかを、具体的事例を挙げながら大変分かりやすくお話しくださいました。slidoというライブ投票サイトもご紹介くださり、参加した先生方も興味津々でした。

